調 査 研 究 終 了 報 告 書

研究分野：保健

調　査　研　究　名	ダイオキシン類による油症等のヒト健康への影響解明及び症状の軽減化に関する研究
研究者名（所属） ※ ○印:研究代表者	○梶原淳睦、平川博仙、堀就英、芦塚由紀、村田さつき、新谷依子、吉富秀亮、中川礼子、飛石和大、安武大輔、小野塚大介、高尾佳子、片岡恭一郎、吉村健清（保健環境研究所）、戸高尊（九州大学大学院医学研究科）、古江増隆（九州大学医学部）、岸玲子（北海道大医学部）
本庁関係部・課	保健医療介護部保健衛生課
調 査 研 究 期 間	平成１９ 年度　－　２１年度　（３年間）
調 査 研 究 種 目	１．■行政研究　　□課題研究 ■共同研究（共同機関名：九州大学大学院医学研究科、九州大学医学部、北海道大医学部） □受託研究（委託機関名：　　） ２．□基礎研究　　■応用研究　　□開発研究 ３．□重点研究　　□推奨研究　　□ＩＳＯ推進研究
ふくおか新世紀計画 第３次実施計画	柱　：いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 大項目：健やかに暮らせる社会づくり 小項目：食の安全・安心の確保
福岡県環境総合基本計画 （P20,21）※環境関係のみ	柱　： テーマ：
キ　ー　ワ　ー　ド	①カネミ油症　②ダイオキシン類　③血液　④環境ホルモン　⑤母乳

研　究　の　概　要

１）調査研究の目的及び必要性

油症は福岡県を中心に発生し現在も多くの患者が居住しており、ダイオキシン類による健康被害には早急な対策が必要である。特に、油症患者は高齢化しており至急対策が必要である。さらに油症をはじめとするダイオキシン類のヒト健康被害及び次世代への影響は多くの県民、国民の大きな関心事であり、ダイオキシン類のヒト健康影響を究明し、健康被害を低減化することは科学的行政対応を遂行する上で非常に重要である。

２）調査研究の概要

ダイオキシン類のヒト健康影響を解明するために膨大なヒトダイオキシン汚染データが必要である。本研究では、当所で開発した少量の血液からダイオキシンを迅速、高精度に測定する分析法及び分析システムを用い、①全国の油症患者の血中ダイオキシン類追跡調査、②保存さい帯等の油症検診以外の油症認定患者の生体試料中のダイオキシン類濃度調査、③妊婦母体血及び母乳調査による胎児期・乳児期影響調査、④油症患者に対する排泄促進剤及び漢方薬投与による治療研究での血中ダイオキシン濃度を測定し、他の指標との比較、解析および評価を行なう。

３）調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）

①全国の油症患者の血中ダイオキシン類追跡調査：783件、②保存さい帯等の油症検診以外の油症認定患者の生体試料中のダイオキシン類濃度調査：保存さい帯38件、骨関係試料16件、③妊婦母体血及び母乳調査による胎児期・乳児期影響調査：母体血56件、母乳190件、④油症患者に対する排泄促進剤及び漢方薬投与による治療研究：H19:53件、H20:49件。平成19年から21年度の新規油症認定患者39名

成果物；厚生労働科学研究費報告書：12編。学術論文：15編。学会発表：国際学会；10報、国内学会；14報

４）県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

ダイオキシン類によるヒト健康や次世代への影響を解明し、健康被害を軽減することは油症患者及び一般県民の健康増進、不安の解消に寄与する。

５）調査研究結果の独創性，新規性

5mlの血液からダイオキシン類の個別異性体濃度の決定に成功し、大規模な血液中ダイオキシン類濃度の調査を可能にした。本研究は油症検診等の際にダイオキシン類の個別異性体濃度を解析に用いた大規模なダイオキシン類ヒト健康影響調査である。また、ダイオキシン類の次世代影響解明の基礎情報を得る調査研究である。

６）成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

研究成果は油症対策に寄与するのだけでなく、ダイオキシン対策の科学的行政対応を遂行していく上で、健康被害の認定や次世代影響への判断材料を提供し、健康被害に対する施策を可能にすることが期待される。